

# なぜ人にアートを紹介するのか

人の人生は、たった一枚の絵で変わることがあります。

私にとって、それはバスキア作品でした。

1990年、パリ。

市内のあるギャラリーに入った瞬間、  
一枚の絵と、その横にあったモニターが  
目に飛び込んできました。

そして私は思ったのです。

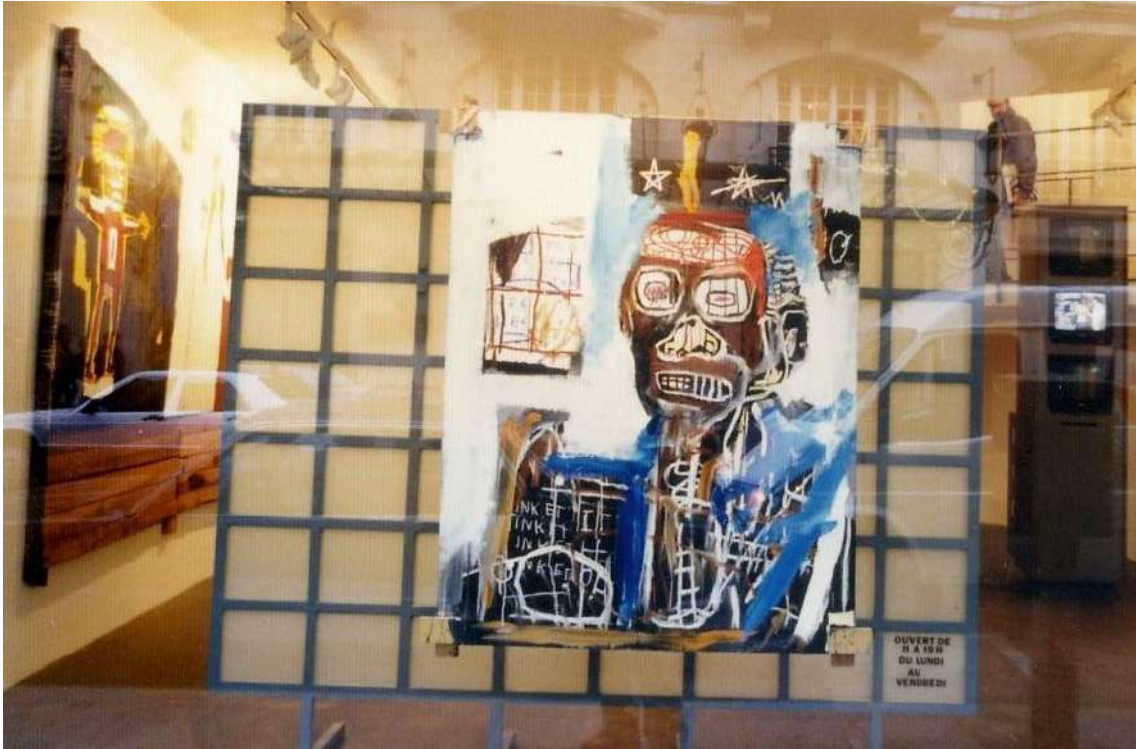
この絵を持ち帰りたい。

ほんの一瞬の出来事でした。  
でも、その感覚は今でも残っています。

当時の私は、  
アートの知識もなければ、  
作品を手に入れる覚悟もありませんでした。

けれど今振り返ると、  
あのとき確かに私は  
アートの扉をくぐったのだと思います。

もしあのとき、無一文になっても  
その絵を手に入れていたら。  
自分の人生はどうなっていたのだろう。  
そんなことを、今でも時々考えます。



新しい絵と出会うことは、  
新しい世界と出会うことです。

そして同時に、  
感動している新しい自分自身を  
発見することでもあります。

作品の前に立ったとき、  
理屈ではなく、  
心が先に動く瞬間があります。

その瞬間、  
世界の見え方が少し変わる。

私は、その感覚こそが  
とても大切なものだと思います。

アートを感じるセンスは、  
人に「判断する力」を与える。

私はそう考えています。

それは、美術の世界だけの話ではありません。

仕事。

人との関係。

社会。

人生。

私たちは日々、  
無数の決断をしています。

何を信じるのか。

何を選ぶのか。

何を美しいと思うのか。

芸術に触れることで、  
その感覚は少しずつ磨かれていく。

そしてその感覚は、  
人生を確実に豊かにしていく。

私はそう信じています。

バスキアといえば、2017年、  
前澤友作さんが作品を約123億円で購入したニュースが話題になりました。

そのニュースを見たとき、  
なぜか他人事には思えませんでした。

昔の自分の記憶が、  
ふっと蘇ったのです。

確かに、絵には  
お金では測れない力があります。

アートには、人の人生や  
世界の見え方を変えてしまう力がある。

それを私は、  
あの瞬間に知ったのだと思います。

私がバスキアの絵を見たのは、  
彼が亡くなってからまだ2年後のことでした。

それから彼の作品は  
世界中の美術館に収蔵され、  
オークションを賑わせ、  
その名声は広がり続けています。

一人のメッセージが  
世界へ届いていく。

そこには作家の才能だけでなく、  
作品を信じた人たちの思いが重なっています。

アートは、  
個人力からでも  
世界を動かすことができる。

私は本気でそう思っています。

私は福岡でギャラリーを運営しています。

そして2015年、  
福岡で初めてのアートフェアを立ち上げました。

当時、ずっと感じていたことがありました。

日本のアートは素晴らしい。  
けれど、その価値が  
社会や世界と十分につながっているとは  
言えないのではないか。

もっと開く必要がある。  
もっと外へ向かう必要がある。

そう思っていました。

世界と共有できる価値観を、  
もっと多くの人に持ってもらいたい。

そのために、  
アートフェアは必要でした。

アートフェアは  
アートを社会に開き、  
街に広げ、  
世界とつなぐ。

私にとってそれは、  
アートを未来へ進めるための  
最高の武器でした。

そして私は、  
ある未来を思い描いています。

アートを感じるセンスを持った人たちが、  
社会の中に増えていくことです。

美しさを見抜く人。  
本質を感じ取る人。  
自分の判断で世界を見る人。

そんな人たちが増えていく世の中を、  
私は夢見ています。

あのときの私のように、  
誰にでも  
アートの扉の前に立つ瞬間がある。

この場所が、  
その入口の一つになれたなら。

そしてこの街から、  
新しいアートの流れが生まれていくのなら。

それほど嬉しいことはありません。